

イギリスの Cambridge 大学 Ph.D. コース 2 年目の岡本尚也です。Department of Physics, Cavendish laboratory, Thin Film Magnetism(TFM) group に所属し、スピントロニクスを中心に研究しています。入学から約一年半が経過いたしました。ここ数か月の日常、および研究生活について報告致します。

【日常生活】

こちらでの生活も約一年半になり、様々なものが軌道にのり日々充実した生活を送れています。まず、所属しているバレーボール部では今シーズン Oxford 大との定期戦に勝利しイギリス大学リーグ第一部の二位、カップ戦でも準優勝という好成績をおさめる事ができました。今はシーズンオフですが、また来シーズン頑張りたいと思います。次に今年度会長を務める学術的日本人会である Cambridge University Japanese Interdisciplinary Forum(十色会)では、「政治学」、「医学」、「哲学」、「金融」、「地域人類学」、「物理学」、「音楽社会学」をテーマに各分野の専門家をお呼びしてセミナーをして頂きました。これらを通じて、様々な人々と出会い新たな知識を身につけ、見識を広げることができたのは非常に大きな財産となりました。6月24日に、今年の総決算として Oxford 大の苅谷剛彦教授をお招きして「日本の教育」に関するセミナーおよびパネルディスカッションを行う予定です。また、現在ケンブリッジの友人と日本の優秀な高校生を対象に「世界で活躍する若手日本人」によるセミナーを企画するボランティア団体を作りました。日本の優秀な高校生が世界に出て活躍していくキッカケになれるよう、頑張っていきたいと思います。以上のように留学先の生活は研究以外にも非常に充実した生活が送れています。財団の皆様やケンブリッジの皆様に感謝申し上げます。

【研究生活】

Cambridge 大の PhD 取得コースの一年目は正式な PhD candidate ではなく The Certificate of Postgraduate Study と分類されます。入学一年後に First year report を提出し、口頭審問を経て PhD candidate になります。今年三月にその口頭審問を受け、論文の書き方に注意等もありましたが、無事に通過しました。研究は順調に進んでおり、一つのプロジェクトの実験はほぼ終わりました。理論的アプローチをアメリカの大学と共同しており、論文作成に向け準備を進めております。また、その一連の中で重要な問題等が出てきており今後の研究対象にしていきたいと考えております。研究は主に同じ分野を研究しているポスドクの方々とディスカッションをしながら進めています。日本での経験も活かしており、毎回意義あるディスカッションができています。

また、研究室では中の良い同期や同僚と毎日楽しく過ごしています。最近こちらで盛んなスカッシュを始め、所属しているカレッジのコートなどを使い皆で楽しんでいます。

ケンブリッジでの生活は日本の都会では考えられないくらい雰囲気が非常にゆったりしており、自分と向き合う時間があります。時間を上手く使い、読書や他の方との会話を通じて様々な考えに触れる事ができます。このような経験は人生の中でも非常に貴重な時間であるので一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。